

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A 中学校)

A 中エールウィークを実施した。4 月中に全校生徒を対象に担任及び副担任が面談を行い、生徒状況の把握と信頼関係の構築に努めた。多くの生徒については励ますことで自己肯定感や自己有用感を育むことが可能となっている。何らかの課題や心配事を抱えている生徒については生活指導部と管理職で対応を検討し、S C や養護教諭につなげ、教室以外にも相談するところや居場所があることを生徒及び保護者へ周知するなどの対応をした。

面談を実施することにより、入学や進級を起因とする不安を抱えた生徒を把握することができるだけでなく、いつでも先生や S C に相談することができるという安心感を与えるとともに、関係性づくりの一助にもなった。

【取組 2】(B 中学校)

学年レクリエーションを実施した。中学校第 3 学年では、新年度が始まって最初の週に学級開きと並行して学年の親睦を深めることを目的とした学年レクリエーションを実施した。内容は、「クイズ一筆書き」と「B 中にまつわる〇×クイズ」の 2 種目であった。副担任が出題者となり「お題」を提示し、リレー形式で学級全員の一人一人が一筆を加えていき一枚の絵を完成させ、「お題」が何であったかを担任が解答する取組であった。生徒だけでなく教員も参加したことで学年全員が盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができた。

企画した教員側のねらい通り、学年の親睦を深めることができたと同時に、生徒たちにとっても楽しい時間となったことで新しい学年での最初の思い出となり、学年、学級への帰属意識が高まった。



«活動の様子» «「お題」の解答»

【取組 3】(C 中学校)

全校朝礼にて「校則を変える練習をしよう」をテーマとした校長講話を行った。「通学路の変更」を例として取り上げ、「きまり」をつくる理由となくす理由、どちらがより重要であるかバランスの見極めが必要であることを示した。実践として、「朝礼時等の体育座りを廃止する」ことが決まった。

生徒たちが、校則や規則、ルールが策定された背景やそれらを守る意味や意図について考えることができた。

【取組 4】(D 中学校)

新入生については小学校からの申し送り事項や入学してから数週間での様子を、在校生については前年度からの引き継ぎやクラス替えを経ての状況を、把握・共通理解するための研修を実施した。

それぞれの生徒に必要な支援方法や配慮の仕方を全教員が共通理解することで、当該生徒に寄り添う指導につなげることができた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（E中学校）

管理職、特別支援教育コーディネーター、登校支援コーディネーター、不登校対応巡回教員、SCなどが参加している。第1学年の生徒を対象に、小学第6学年の指導要録から遅刻・欠席数を集約して本会議にて共有し、欠席が多い生徒について共通理解をした。

アウトリーチによる支援(D中学校)

学級担任、SCと連絡を取り合い、家庭訪問を実施した。当該生徒との面会は叶わなかったが、保護者と対話することができ、不登校対応巡回教員による支援内容や担任から預かった配布物等の説明、本人や保護者が少しでも安心して前向きになれるような声掛けを行った。家庭訪問を定期的実施することができた。

校内別室における支援（A中学校）

校内別室のレイアウト変更を行った。学習スペース、活動スペース、リラックススペースと目的別にエリアを分け、校内で余剰となっていた卓球台やソファをリユースして活用し、居場所機能の強化を図った。

校内別室では、大まかな時程表を作成しているが、基本的な別室での過ごし方は通室した生徒自身に決定させるようにしている。学習する意欲がある生徒は自習やオンラインでの授業参加に取り組み、体力向上やコミュニケーション能力の育成をねらいとして、屋外でバスケトボールを行うなど、体育的活動を取り入れている。



デジタル機器を活用した支援(B中学校)

学級担任の献身的な努力が実を結び、1学期末に初めて登校した生徒とは、直接挨拶や自己紹介をすることができた。今後のアウトリーチによる支援を想定して、保護者への挨拶及び自己紹介動画を一人1台端末で撮影した。三者面談で保護者に視聴してもらい、その後の支援につなげることができた。

関係機関との連携（A中学校）

SSW配置拠点校となっており、緊密な連携を取り、教育課題に対応している。生活指導部会にて、支援を要する生徒や家庭との関わりで得られた情報の共有や、会議で話題に上がった要支援生徒や家庭へのスピーディな対応、校内別室の生徒ともコミュニケーションを取っている。

成果

不登校対応における専門的な役職を配置したことにより、多面的・多角的な支援を行えるようになった。各校での効果的な事例を共有することにより相乗効果が得られた。

課題

各巡回担当校における不登校生徒への支援を更に充実させるため、各学校の取組の改善を図りたい。